

ダイアナブライト

登録番号：第1760号

育成者：佐藤光之助

登録年月日：昭和63年1月5日

由来：自然交雑実生(両親不明)

登録者：佐藤光之助

(山形県東村山郡山辺町
字山辺1097番地)

特 性

■栽培特性

樹姿は若木のうちは直立、結果樹齢になると開張してくる。樹勢は中位である。枝の発生密度は中程度であり、枝梢の太さは「佐藤錦」と同程度である。葉形は楕円形で蜜腺の形は腎臓形である。葉の大きさは大で、「佐藤錦」、「ナポレオン」より大きい。

開花期は育成地で「佐藤錦」と同時期の5月下旬である。花の大きさは中位で、小花数も中位である。

「佐藤錦」と同じ交配和合群に属するので、佐藤錦と親和性のある品種についてはダイアナブライトも親和性があると考えてよい。すなわち親和性のある品種は「ナポレオン」、「高砂」、「ジャポレー」等であり、親和性のない品種は「佐藤錦」、「南陽」である。ただし、結実性を高めるには開花時期が合うことも必要となる。

花芽の着生は「佐藤錦」と比べるとやや少ない。

■果実特性

果形は心臓形で、果頂部は浅く凹み、梗あいの深さは浅く、広さは中位である。着果程度は中位で樹勢が落ち着くと果実の揃いは良好である。果実の大きさは10g以上になり、白肉種としては極大である。核と果肉の粘離は半粘であり、核の大きさは楕円形で「佐藤錦」よりはやや大きい、果実の割には小さい。

果皮色は黄色地に赤く着色し、赤斑は目立たない。色調は「佐藤錦」に似るが、着色度はやや淡く美しい。果肉色は乳白色で果肉内や核周囲の着色は見られない。

肉質は緻密であり、果肉の硬さは中位である。果汁は多く、甘味は中位で、酸味は少ない。食味はやや淡泊である。

果梗の長さは中位であるが、「佐藤錦」や「ナポレオン」より太く、本品種の特徴的なところである。

成熟日数は満開後50日前後で、山形における成熟期は6月下旬となり、「佐藤錦」とほぼ同時期か若干遅く収穫される。

特別問題とすべき病害は発生していない。裂果の発生は中程度である。

■栽培上の留意点

「佐藤錦」や「ナポレオン」に比べると花束状短果枝が着きにくいので、若木のうちは強剪定を避け、樹勢を落ち着けることが大切である。また、着色はやや淡いので光が十分に当たるような管理をする。

熟期を過ぎると軸抜けしやすくなるので、適期収穫に努めることが肝要である。裂果を防ぐには雨除けテントを設置する必要がある。

■地域適応性

適応範囲は比較的広く、いずれのオウトウ産地においても栽培が可能である。

(西村幸一)